

EurekaXIV

六年制通信 No.9 令和8年6月5日(金)号

頭の体操 再び

本を読んでいて最近、ではないな、前々から不愉快な書き方がありましてね。絶対に昔はなかった表記ですが、諸君はもう何とも思わないのでしょうか。ちょっと考えてみて下さい。縦書きで読んでいるとして「昭和三五年」の「三十五」を発音できますか。私はこれを「さんじゅうご」とは読めません。書く時も必ず「昭和三十五年」と書きます。「三五」を「さんじゅうご」と読ますのであれば漱石の「三四郎」は「さんじゅうしろ」ですけど、そんな馬鹿なことないでしょ。こういうの、気になって仕方ないのですが、諸君はもう平気かもしれませんね。いや、大人が悪いのです。君たちのせいではありません。他にも数字の問題で、アラビア数字を平気で使いますね、最近は。「一人」「二人」、君たち、これを何と読みますか。もちろん「ひとり」「ふたり」ですよ。では、「1人」「2人」はどうですか。やはり「ひとり」「ふたり」と読みますか。これはもう普通になっていますから、君たちには違和感がないかもしれませんが、アラビア数字の1、2の読みは「イチ」「ニ」以外ありません。実はこちらの入試問題でも、算数や理科ではこれを許していますが、私の子どもの頃はこんな表記はなかったはずですよ。

もっとひどいのは、例えば「旗本八万騎」を「旗本8万騎」と書いてみたり、これはどう考えてもおかしいでしょう。それなら「四苦八苦」を「4苦8苦」とでも書きますか。私はまだ「旗本80,000騎」を見たことはありませんが、そのうち出てきそうで怖い。「旗本八万騎」は実際にぴったり八万でなくてもいいのですが、「旗本80,000騎」では79,999騎でも80,001騎でもなく、ぴったり80,000騎ということになります。

あるいは蜂のダンスは「8の字ダンス」で「八の字ダンス」では意味をなさないのでアラビア数字でなければならず、「八の字の立派な髭をたくわえ」ではアラビア数字は使えません。8の字の髭、見たことないでしょ。このあたり、アラビア数字か漢数字か、どちらを使うか決まっているものもあるのですが、意味が分かればいいではないかといった安易な使い方が基本的に嫌いです。

「一人」か「1人」か、これを例えば新聞などでは校閲の段階でどう処理しているのだろうと長年疑問だったのですが、最近『いじわるな日本語』という、産経編集センター校閲部が発行している本を読みまして、一応の基準はわかりました。全く納得はしていませんけどね。新聞の紙面では漢数字と洋数字を使い分けている、と。「数字を他と置き換えられない数字は漢数字、置き換えられるものは洋数字」にするそうなのですが、これ、理解できますか。例えば「1人ずつ」と「一人ずつ」で迷ったら、この数字の部分で2や3に置き換えらるから「1人ずつ」「2人ずつ」「3人ずつ」とするわ

けです。しかし「自分ひとり」の場合「自分ふたり」はあり得ないから漢数字の「自分一人」と書くと。これには例外があって、プロレス技の「4の字固め」は「5の字固め」や「6の字固め」はないのだから、基準通りなら「四の字固め」にしなければならないのだが、あの技は足が「4」の字になるのだから「四」を使うのはおかしいということになる。英語では **Figure-Four Leglock** ですからね。ま、つまらん例外の説明です。

さて、ではこの本からいくつかクイズを出してみましょう。自分が校閲者になったつもりで、文章の間違いを正してください。正解できますかな。

- ① 2倍以上の増額となる10億円で契約した。
- ② 競走馬が馬房の中で倒れ死亡した。
- ③ リーダーは危険を犯す決断を行った。
- ④ 注文した商品を宅急便で送らせた。
- ⑤ 試練を乗り越え、仲間の絆が深まった。
- ⑥ ○○高校のA先輩と□□高校のB先輩は平成14年生まれの同級生だ。
- ⑦ 手入れされた庭園は、満開の花だらけだった。

答えは次号に掲載します。

では、私から質問です。日本語には「土産」と書いて「みやげ」と読むような、漢字単体の読みではなく全体で読みが完成する語があります。「雪崩」を「なだれ」、「昨日」を「きのう」と読むのもそうですね。こういうのを「熟字訓」と言います。では、なるべくたくさんの熟字訓を集めて下さい。身近な語にたくさんありますよ。

今週のおすすめ

・シュリーマン 『シュリーマン旅行記 清国・日本』 (講談社学術文庫)

シュリーマンの著作では『古代への情熱』をまず読んでほしいと思います。トロイア戦争の遺跡の発掘で有名になった考古学者ですよね。ホメロスの『イリアス』と『オデュッセイア』をはじめとして西洋古典の作品群で伝承されてきたトロイア戦争は、伝説ではなく事実起こったことなのだと子どもの頃から信じてきたシュリーマンの自伝です。彼が日本を訪れていたことは知っていましたが、私の興味は彼の語学の才能と発掘の方だったので『旅行記』はちゃんと読んでいませんでした。今回読んでみて、第十四代将軍徳川家茂(1858~1866)の上洛を見物していることを初めて知りました。また、将軍が籠ではなくて馬に乗って移動することも初めて知りました。

横浜と江戸の風物をつぶさに検証して、当時の日本人の生活と人柄に感銘を受けている様子がうかがえます。読んでいて、嬉しくなります。上陸すると荷物改めがあるのですが、ワイロを渡して逃れようとするシュリーマンに(というのは特に彼が悪いのではなく、これ、いたって普通のことなわけです、日本以外では)、日本男児がワイロに負けて義務を放棄することなどあり得ないというのですね。嬉しいでしょ。

質素な暮らしの中でも合理的な風習があったり、各家庭が花を愛でているといった記述もあったり、また混浴風呂に驚く様子なども面白く書かれ、読んでいて飽きません。あの時代、日本を訪れた外国人の日本に対する印象は概ね好意的ですね。

BGMは Bruno Mars の *Just The Way You Are* でした…。